食肉海外事業の根幹を支える ANZCO FOODS（アンズコフーズ）とともにグループシナジーを創出

全世界に展開する食肉海外事業

当社グループの2022年度海外売上高はグループ全体の14.8%を占めており、その中の食肉海外事業の中核であるANZCO FOODS（本社・ニュージーランド）では、牛肉・羊肉の処理・製造・販売、および牛肉加工品とヘルスケア商品の製造販売を行っています。その他米国のITOHAM AMERICAでは、豚肉の調達・輸出・販売および北米での和牛販売を、同米国INDIANA PACKERSでは豚肉の処理・生産・販売、豚肉加工品の生産・販売を行い、グローバルに事業展開を行っています。

食肉海外事業が推進する戦略

「中期経営計画2023」の重点取り組みテーマのひとつ「収益基盤の強化」に向け、海外事業戦略では「ANZCO FOODSの収益向上」と「和牛輸出の強化」を掲げ、ANZCO FOODSの内部構造改革とともに、ANZCO FOODS販売拠点およびITOHAM AMERICAを活用した和牛の販売拡大に取り組みました。もうひとつの重点取り組みテーマである「新規事業・市場への取り組み」では「たんぱく質の安定供給」を掲げ、海外パッカーからのブランド食肉の調達を強化するとともに、ヘルスケア事業の強化を推進しました。

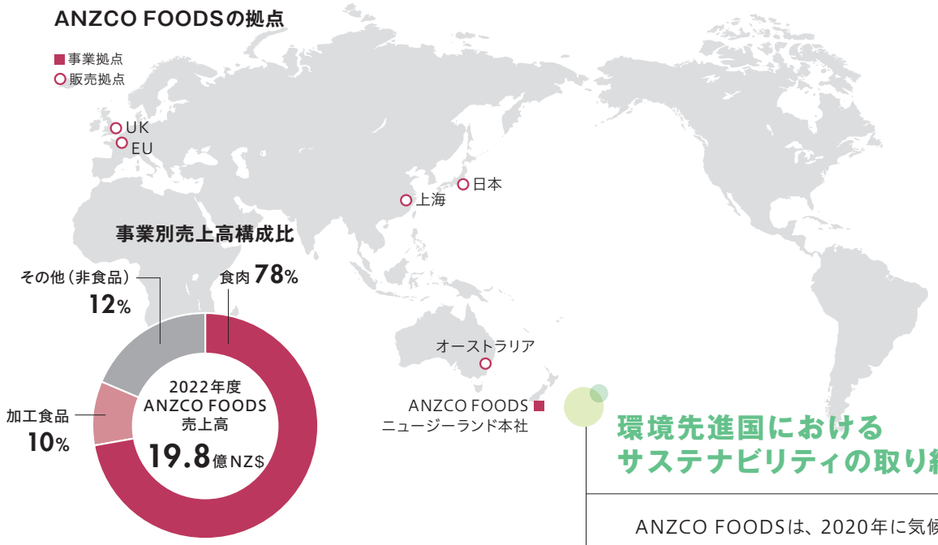
ANZCO FOODSの概要

企業サイト（英語のみ）

- **所在地：**
  ニュージーランド（NZ）南東・クライストチャーチ市
- **年間処理頭数：**
  肉牛15万頭、乳牛29万頭、羊220万頭
- **食肉処理工場：**
  NZ国内に7工場（すべてハラル認証対応）
- **輸出先：**
  中国、北米、日本、EUなど

ANZCO FOODSとのあゆみ

1984年	アジアン・ニュージーランド・ミート・カンパニー（ANZCO）設立。日本でNZ産の牛肉と子羊肉を販売開始
1989年	●ファイブスタービーフ・フィードロット（肥育場）設立 ●高品質な日本向けグレインフェッドビーフ（穀物肥育牛）確保を目的とし、伊藤ハムがファイブスタービーフ・フィードロット（1991年稼働）に出資（ANZCO FOODS50%、伊藤ハム50%）
1995年	日本向けNZ産牛肉・羊肉の販売拡大を目的に、伊藤ハムがANZCO FOODSへ出資（48%）、株主となる
2010年	伊藤ハムが海外のグレインフェッドビーフ（穀物肥育牛）の生産拠点をNZに集約
2015年	海外生産および海外市場での販売拡大を目指し、伊藤ハムの出資比率を拡大し子会社化（65%）
2017年	海外事業を強化し、増加する世界の食肉需要を取り込むべく、伊藤ハムが100%子会社化し、会長職の派遣によるガバナンス強化を図る
2022年	Moregateの血液製剤事業を買収、ヘルスケア事業を強化



ANZCO FOODSの中核事業・取り組み

ANZCO FOODSの中核事業である食肉事業は売上の約8割を占め、ニュージーランドに7つの食肉処理工場と自国で唯一の大規模肉牛フィードロットを有しています。また、ファストフード向けビーフパティやビーフジャーキーなどの食肉加工品も製造しています。

ヘルスケア事業では、2022年度にオーストラリアのMoregateを買収し、主力製品の牛血液製剤のシェア拡大を図りました。この製品はワクチン製造・再生医療・臨床診断などに用いられ、今後も高い市場性が見込まれています。

グループシナジー創出に向けた取り組み

ANZCO FOODSは2019年から2020年にかけて、①組織変更による効率化　②ビジネスプロセスの見直し　③コアビジネスへの経営資源の集中を行ったことで、収益重視のビジネスモデルを確立し、2018年度の大幅な赤字からV字回復を成し遂げました。その後、2021年度と2022年度は連続して過去最高益を更新しています。

日本国内における商品の販売拡大やブランドの確立は、当社グループとANZCO FOODSの子会社アンズコジャパンが共同で取り組んでいます。また、ANZCO FOODSの海外事業所を活用し、当社グループの輸出認定工場で生産された和牛を販売するなど、グループシナジーを創出しています。

環境先進国におけるサステナビリティの取り組み

ANZCO FOODSは、2020年に気候変動とサステナビリティに関する3カ年計画を策定し、順調に取り組みを進めています。2023年中に次期3カ年の戦略の見直しを予定しています。

環境負荷の低減へ

ANZCO FOODSでは、温室効果ガス排出量削減の目標を掲げ、環境負荷の低減に配慮した取り組みを続けています。一例として、コキリ工場では石炭ボイラーを電気ボイラーに転換し、カンタベリー工場では排熱を用いて温水を生成するヒートポンプシステムを導入しています。また、ファイブスタービーフ・フィードロットでは廃棄物をバイオエネルギーに変換するパイロットプラントを設置しています。また、ANZCO FOODSの温室効果ガス排出量の大部分を占める家畜由来の排出削減に向け、研究機関と共同研究を行い、天然飼料サプリメントを試験的に導入しています。さらに、工場での水使用の最適化に重点を置き、水の使用量を大幅に削減しました。その他、マルボロ工場では太陽光パネルを設置しており、その効果を検証して各工場への設置拡大を検討していきます。

従業員の健康福祉と地域への配慮

ANZCO FOODSでは、従業員の健康福祉、労働安全の環境整備に取り組み、安全性向上のための投資を継続的に進めています。ANZCO FOODSの加工拠点はニュージーランド全土にあり、それぞれの地域での雇用促進に貢献し、職場における多様性に配慮し、さまざまな民族、経歴、文化を持つ従業員が、互いに尊重し合い、働ける職場環境を整備することが重要であると考えています。また、農家とは緊密に協力して動物福祉に配慮した飼養管理を継続できるよう支援しています。